地域スポーツの振興

都民大会豊島区選手団解団式

都民にスポーツを普及し、地域スポーツの振興と地区の友好親善を目的に昭和22年から区市町村対抗で毎年開催されている都民体育大会の豊島区選手団解団式が6月23日、IKE.bizとしま産業振興プラザ多目的ホールで来賓、体育協会加盟のスポーツ団体の選手、関係者など約130名が出席して開催された。

来賓として、高野之夫区長、木下広区議会議長、長橋桂一都議、堀宏道都議、米倉春奈都議、区議会議員、小澤弘一文化商工部長、藤田力学習・スポーツ課長が出席した。

大会には豊島区からは25競技365名が参加。全都では約1万5千名が参加した。総合成績は男子54地区中14位、女子53地区中16位だった。女子は昨年7位だったが、2年連続入賞とはならなかった。入賞した競技は男子ではスキー2位、フェンシング3位、アーチェリー4位、ボウリング5位、女子ではボウリング3位、スキー5位、バレーボール8位。公開競技成績では女子アーチェリー3位、女子フェンシング8位だった。なお、総合成績1位は男女とも大田区。

選手団は数々の活躍を残し、団旗が副島健体協会長から区長代理の藤田課長におごそかに返還された。また、都体協生涯スポーツ功労者として西倉早余ダンススポーツ連盟会長が、優良団体として馬術連盟（松井明子会長）が表彰されたことが紹介されると、出席者から大きな祝福の拍手が起こった。

引き続き行われた慰労会では、各団体の選手が大会を振り返り、競技の枠を超えて健闘を称えあった。小林幸栄体協副会長は「女子総合2年連続入賞が果たせず残念。心機一転、再度入賞を狙いたい」と捲土重来を誓った。

一方、女子3位、男子5位の好成績を残したボウリング連盟の岩田信義会長は「今回は成長著しい選手が揃ったことが勝因」と分析、笑顔で何度も祝杯をあげていた。

高野区長招集あいさつ

して、議論が本格化してきております。

本区の選択的介護モデル事業につきましては、マスコミで報道され、全国的にも注目が集まっております。6月2日に初開催いたしました「選択的介護モデル事業に関する有識者会議」は、本区と東京都が共同して事務局機能を担い、その委員につきましても、著名な学識経験者の方々、

ル事業の検討が本格化してまいりますが、このモデル事業の波及力が大きな効果を生み、その結果が何よりも区民サービスの向上につながり、さらには介護保険制度が抱える課題の解決にも結び付く、文字通り全国のモデルとなるような選択的介護事業が実施できるよう検討してまいります。

次に、「受動喫煙防ら守る条例」を制定すべく、第三回の区議会定例会でご審査をいただきたいと考えております。

受動喫煙については、社会的関心も高く、多方面から様々なご意見をいただいておりますが、喫煙による被害防止をさらに促すための様々な対応を求める声が大きいこと、そして、NPO法人「日本禁煙学会」などがまと

島区から全国にこの問題に対する関心を高めてまいりたいと考えております。

また、受動喫煙防止とともに、禁煙への取組みを一層推進すべく、禁煙外来などの分野で幅広い取組みをしている製薬会社の「ファイザー株式会社」と「健康づくりに向けた包括的連携に関する協定」を昨年度末に締結いたしました。『世界

トップ同士で確認いたしました。今後、同社のノウハウを活かし浩荘」は、昭和56年に区内で初めて開設された特別養護老人ホームであります。しかし、築後40年近く経過し、老朽化が著しいことから、本区が土地を貸与し、池袋本町への移転による建て替え計画を進めてきました。

5月27日に住民への工事説明会を終え、平成31年度の開設に向け、いよいよ今月着工しました。整備に当た

ル掘り下げますが、周辺環境との調和を図り、地盛り新たなシンで『前進』という意味だそうですが、いよいよ9月からオープンの予定となっております。介護老人保健施設としては区内3か所目となり、これにより区内の総定員は206名から356名へと大幅に増えました。

介護老人保健施設は、病院から在宅生活への橋渡しをする施設でありますが、先ほどの特別養護老人ホーム

ため、整備意欲を促進させる手厚い支援策を

今後も講

が中心の
く、住宅
る本区で
を達成し
変大きな
考えてお
ッフの努
いと思い
しかし
在待機児
点でまだ
っしゃい
ロ宣言」
子育て世
入し、保